

令和7年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第3学年生徒を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国 語】

- 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができている。
- 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができている。
- 漢字の読み書きや、事象や行為を表す語彙についての理解に課題がある。

【数 学】

- 数量を文字を用いた式で表す問題、グラフから情報を読み取る問題の正答率が全国・県の平均を上回っており、データから必要な数値を求めたり、分析したりする力が身に付いている生徒が多い。
- 無解答率が県や全国よりも低く、粘り強く問題に取り組み、解答しようとする生徒が多い。
- 素数を選んだり、外角の大きさを求めたりするなどの問題の正答率が低く、数学の語彙の意味や外角の意味を理解に課題がある。

【理 科】

- 科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できている。
- 気圧に関する身近な事象を問題、呼吸を行う生物について問題の正答率が全国・県の平均を上回っており、気圧の知識や生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いている。
- 塩素の元素記号を問う問題から、元素を記号で表すことに関する知識及び技能に課題がある。

2 生徒質問紙に関する結果の概要

- 自分には、良いところがあり、先生は認めてくれるという項目が県や全国を上回っており、自己肯定感を高めることができている。
- 学級の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている生徒が大変多い。
- 家庭での学習時間が30分未満の生徒や週末に1時間未満の生徒の割合がやや多い。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 全校での授業研究と授業改善の推進（学習の動機付けに注目した校内主題研究）
- ・ I C Tを活用した言語活動と教材提示
- ・ 各教科主任を中心とした学力向上委員会による学力分析と対策の共有化

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 学習の動機付けに注目した校内主題研究
- ・ I C Tを活用した個別最適な授業の推進
- ・ 各教科主任を中心とした教科間交流と課題の選定による家庭学習時間の増加

(2) 生徒質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 進路指導、いとしま学、起業家教育などのキャリア教育の推進
- ・ 学習者を主体とした授業づくりへの授業改善

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 家庭や地域と連携し、I C Tを活用した家庭学習の充実と効果の検証
- ・ 持続的な学習意欲を引き出すための段階的な学習デザインと単元デザインの構築